

ぶらり

なんたん 14

たじ たわら おんだ ～多治神社(田原の御田、カッコスリ)～

田原川沿いで今に生き続ける民俗芸能



▲田原の御田 (国指定重要無形民俗文化財)

田原川沿いの地域で、守り受け継がれてきた民俗芸能は、今に生き続けています。

「作太郎はん、けしからん今日は良い日ですわ」「作次郎はん、そんな結構な日やったらぼちぼち始めましょか」「そうですねあ」「よっこらしょ」

作太郎と作次郎の軽妙なやりとりで笑いを誘いながら、一年の稲作の過程が狂言風に演じられる『田原の御田』。毎年五月三日に、豊作を願って、日吉町田原の多治神社で行われる伝承芸能で、平成十二年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

また、十月の秋祭りには、豊作を祝い、羯鼓(かっこ)で四度建て替えられており、現在の本殿は、丹波地方では最大級の規模をもつ二間社流造の建物で、江戸時代の宝暦五年(一七五五)に建立された京都府登録文化財です。本殿前には、二本のタラヨウの高木が並び、神々しいたがずまいで参拝者を迎えます。

田原川沿いの地域で、守り受け継がれてきた民俗芸能は、今に生き続けています。

「作太郎はん、けしからん今日は良い日ですわ」「作次郎はん、そんな結構な日やったらぼちぼち始めましょか」「そうですねあ」「よっこらしょ」

作太郎と作次郎の軽妙なやりとりで笑いを誘いながら、一年の稲作の過程が狂言風に演じられる『田原の御田』。毎年五月三日に、豊作を願って、日吉町田原の多治神社で行われる伝承芸能で、平成十二年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

また、十月の秋祭りには、豊作を祝い、羯鼓(かっこ)で四度建て替えられており、現在の本殿は、丹波地方では最大級の規模をもつ二間社流造の建物で、江戸時代の宝暦五年(一七五五)に建立された京都府登録文化財です。本殿前には、二本のタラヨウの高木が並び、神々しいたがずまいで参拝者を迎えます。

田原川沿いの地域で、守り受け継がれてきた民俗芸能は、今に生き続けています。



▲多治神社本殿 (京都府登録文化財)

と呼ばれる鼓を打ち囃して踊る、京都府の無形民俗文化財『カッコスリ』が行われます。

多治神社の本殿は、これまでに四度建て替えられており、現在の本殿は、丹波地方では最大級の規模をもつ二間社流造の建物で、江戸時代の宝暦五年(一七五五)に建立された京都府登録文化財です。本殿前には、二本のタラヨウの高木が並び、神々しいたがずまいで参拝者を迎えます。

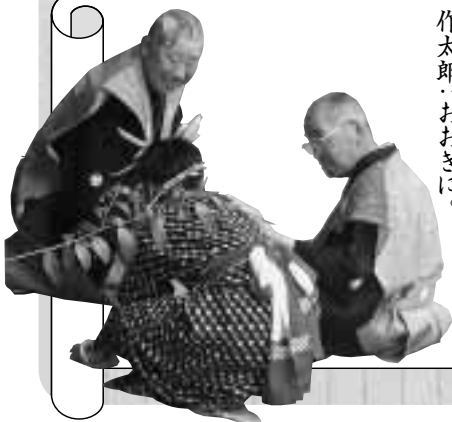
田原川沿いの地域で、守り受け継がれてきた民俗芸能は、今に生き続けています。

ぶらり案内



多治神社民俗芸能保存会
会長 藤井 日出夫 さん

多治神社民俗芸能保存会の会長、藤井日出夫さんにお話をお伺いしました。「多治神社は古い歴史のある神社で、『田原の御田』や『カッコスリ』など、大変貴重な文化財が受け継がれています。この伝統行事には、大阪など多方面からも毎年多くの方が見に来られ、ここで撮られた写真がコンクールで入賞されたとの報告もいただきました。形があるものはもちろん、人から人へと伝承していく無形のもの、保存・継承していくのが大変難しいことですが、地域の方々などに長年にわたってお世話になり、守っていただいております」



田原の御田(牛買い・一部抜粋)
―作次郎と牛売り(作太郎)―

作次郎：良いお天気で。毎年多治神社の御田に、良い牛をお世話してもうとるで、今年も一つ世話になりたいと思ってるんですが。

作太郎：毎年のことやで、良い牛を残しとります。これ、見てください。

作次郎：なんと、これは、けしからん良い牛ですな。ついては、値段を決めんことには……。

作太郎：二十両でどうでっしゃろ。

作次郎：いやいや、もうちょっと負けてもらえまへんか。

作太郎：ほんなら、二十両のところを、負けて二十五両にさせてもらいましょか。

作次郎：へえ、そらうれしい。二十両のところを、二十五両に負けてもろて、そつしましょ。

作太郎：おおきに。